

授業実践部（各学年部会）での実践

- 1 1年次（平成18年度）
 （1）授業作り、研究授業や授業研究会の実施
 各学年の研究授業から学べたこと

学年	授業者	教科・領域等 単元・題材・主題	学べたこと・参考にしたいこと
1	町田	道徳 「大切な友達」 	- 各教科、道徳、特別活動の内容を構造的に組み込んだ、総合単元的な授業作り - 子ども達一人一人への気配り、温かい雰囲気作り - 場面絵の活用と語りかけ - 見やすい構造的板書 「目で聞くんだよ。」の声かけ - 役割演技 - ワークシートの活用 - 人権教育の直接的指導そのもの
2	吉田	道徳 「ちがいを豊かに」 	- 自分の考えや理由などを書き込めるワークシートの活用→考えが整理される - 机間巡視をしながら、温かく見守ったり優しく声かけをしたりする。 - 資料の提示を、絵本を使ってゆっくりと。→子ども達は集中、資料の内容を十分に理解 - ワークシートの記述をもとに、グループでの発表や全体での発表→活発な意見交換 - すばらしい学級経営の上に授業が成立→しっとりとした雰囲気→人権教育の直接的指導そのもの
4	今井	社会 「ふるさとれきしまップ」 	- 前小単元の学習の内容や本小単元の既習内容と適切にリンクさせた導入 - 掲示物の工夫（「藤岡町絵図」、課題等を適切に示す「ポイントカード」、学習意欲をそそる「昔の運動会の写真」、活動の目安を示す「学習の流れ図」） - 子ども達が調べ学習をしやすいようにと「地区別グループ」をつくる。 - 発問や説明の巧みさ（声には明るさとはりがある。） - 一人一人の児童を大切にしている（子どもの考えを認める。状況に合った声かけ、誉めたり労をねぎらったりする声かけ）←学習状況や性格などの把握＜アンケート結果の有効的な活用＞ - 学習を支援するための写真の提示 - 子ども達との厚い信頼関係→絶妙なやりとり
5	小西	国語 「目的に応じた伝え方を考えよう」 	- パソコンやプロジェクタなどの情報機器の活用 - 子ども達一人一人に、プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を活用させ、プレゼンをさせたこと - 観点別評価カード・課題発見カードなどのワークシートの活用 15秒で読める字数になるように工夫された原稿用紙 - 教師の言葉遣いも子ども達の学習態度もよい。
6	笹澤	学級活動 「たてわり活動の計画をたてよう」 	- 導入部での工夫（「先生方からの思い」を伝える。「下級生の生の声の録音テープ」を流す。）→リーダー意識を高めることにつながった 「3学期に実施するたてわり活動の計画」について話し合わせる。←タイムリーな題材 「遊びの紹介メニュー」の作成と配布 - ワークシートの活用 - 縦割り班活動に合わせたグループによる話し合い活動→直接実践につながる。